

経済・財政一体改革の実行に向けて（報告骨子案）  
—経済・財政再生の「見える化」と改革推進のPDCA—

## 1 改革推進の要点

### （1）躍動感ある改革を進める

- ・改革を進めていくためには「躍動感」が重要。広く国民の気付きと行動変化へ訴えかける必要。そのための「見える化」がポイント
- ・主要な歳出項目 80 項目のすべてについて、骨太の方針 2015 に記載されている基本的な考え方を踏まえ、改革の具体的な内容、規模、時期等について明確化。K P I（160 程度）を進捗管理、構造変化、マクロ効果の階層により体系化
- ・ワイズスペンディングを徹底する改革推進

### （2）初年度のスタートダッシュが重要

- ・平成 28 年度の予算編成等への反映
- ・着手する主な「見える化」の取組

## 2 主要分野毎の改革の取組

### （1）社会保障

- ・医療・介護等の給付の実態の徹底的な「見える化」を進める。そのうえで、地域差を分析し、その是正等に向けた取組を推進するプロセスを改革工程表において明確化
- ・医療費適正化計画に基づく各都道府県の医療費適正化の取組や、地域医療構想に基づく病床の機能分化について、K P I 設定により進捗状況を把握し、2020 年度時点での十分な進捗を実現
- ・K P I 設定や改革工程の明確化により、保険者・個人双方に対する健康づくりや予防等の推進に係るインセンティブ付けを強化
- ・負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化については、改革工程表において実施検討時期や改革の方向性等を明確化
- ・薬価、調剤等の診療報酬及び医薬品等に係る改革については、平成 28 年度診療報酬改定における対応を明確化 等

## (2) 社会資本整備等

- ・コンパクト・プラス・ネットワークの形成、国公有資産の適正化、PPP/PFIの推進など、持続可能な都市構造への転換と公共施設のストックの適正化
- ・ストック効果の最大化を図る社会資本整備、国土強靱化等の推進、現場の担い手・技能人材に係る構造改革 等

## (3) 地方行財政改革・分野横断的な取組等

- ・トップランナー方式の導入（歳出効率化に向けた業務改革で他団体のモデルとなるようなものを基準財政需要額の算定に反映）
- ・窓口業務のアウトソーシングなど汎用性のある先進的な取組みの全国展開
- ・自治体の行政コストの見える化の徹底、誰もが利用できる形での情報開示
- ・自治体クラウドの取組事例の分析・全国展開 等

## (4) 文教科学技術、その他

- ・教育効果のエビデンスを重視
- ・少子化の進展・学校規模の適正化等を踏まえた教職員定数の見通しの提示
- ・国立大学・応用研究への民間資金導入、教育・研究の質の向上を測るKPI設定 等

## 3 改革の目指す姿、PDCAの構築

- ・国はもとより、自治体、企業、保険者や、住民へ広範に浸透する改革を推進  
能動的、自発的な改革を「見える化」の徹底・拡大によって促進
- ・単年度と複数年度のPDCA、ミクロの点検とマクロの評価、行政自らによる評価と外部の検証・分析など組み合わせた中期的で実効的なPDCA構築

### ●工程表編

- －重要課題別の改革工程表

### ●図表編

- －重要課題別のKPI
- －改革効果の試算
- －主な見える化の例・今後の見える化の取組リスト

### ●参考

- －各府省庁の一体改革に向けた取組・検討状況について